

連携プレーでサッカー仲間の命を救う

[概要] 2月5日(日)に八王子市内のグラウンドで開催されていた三多摩サッカー大会(男子0-60)で、Y選手が試合中に意識を失い心肺停止の状態に陥りました。居合わせた大会関係者6人(役員、審判員、対戦選手、チームメイト)が119番通報し、心臓マッサージとAED(自動体外式除細動器)を使用した救命処置を行った後、救急隊に引き継ぎ救命ヘリで三鷹市の大学病院へ搬送されました。

2月21日にY選手が所属するサッカー協会代表者より初期対応に関わった方々への感謝と三多摩サッカー連盟へのお詫びのことは受理しました。Y選手は緊急搬送後心臓カテーテル手術を行い、心肺運動負荷試験を経て本日退院し、後遺症もなく体調は以前と特に変わらず近日中に社会復帰されるとのことでした。併せ「一日も早くボールを蹴りたい」と本人が述べていたとの連絡もありました。

3月1日に救急隊員が到着するまでの対応(連携・協力)が評価され、東京消防庁総監より感謝状が贈呈されました。当日は6人中4人の出席、(写真1)向かって左から樋口一善様(連盟役員)、日野真一郎氏・児島郁男氏(審判員)、石井利尚氏(チームメイト)。(写真2)樋口氏への感謝状、各自対応した内容になっています。

[まとめ]今回の初期対応6名の多くは救命講習受講経験者であり、傷病者は緊急連絡先を携帯していました。今後シニアチームの増加に伴い同様のリスクが危惧されます。そのためにも各地域で行われる救命講習会の積極的な参加、60歳以上のゲーム時には既往歴や緊急連絡先を携帯する等を検討します。(文責:理事長 齋藤直広)



写真1 感謝状贈呈後の集合写真

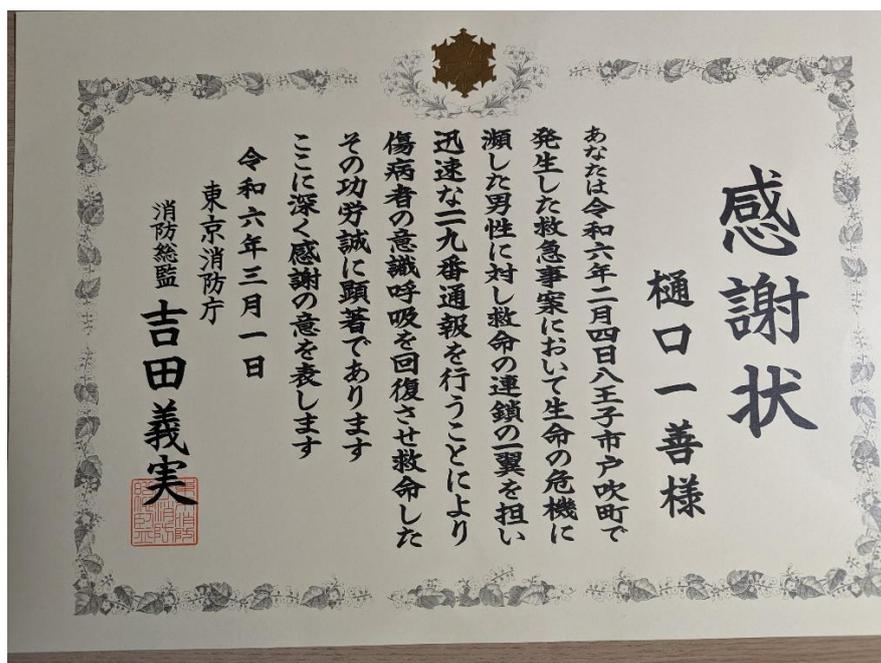


写真2 樋口一善氏への感謝状